

平成21年度環境監視結果年報の概要

1 結果取りまとめの対象期間

平成21年4月から平成22年3月まで

2 環境監視の項目

(1) 空港島等の存在に係る項目

鳥類（カモメ類等水鳥・カワウ）

(2) 空港の供用に係る項目

一般環境大気質、騒音及び鳥類（タカ類等渡り鳥）

3 評価の内容（総合評価）

(1) 空港島等の存在に係る環境監視結果

ア 過年度データとの比較

鳥類（カモメ類等水鳥・カワウ）について、過年度データとの比較をした結果、局所的に多数のスズガモ及びアジサシが確認されたが、空港島等の存在による大きな変化はみられなかった。

イ 予測結果との比較

鳥類（カモメ類等水鳥・カワウ）について、予測結果との比較をした結果、カモメ類及びカワウは同程度であり、シギ・チドリ類及びその他の水鳥は、環境監視結果における出現数が多かった。なお、アジサシ類については明確な傾向は確認できなかった。

(2) 空港の供用に係る環境監視結果

ア 環境基準値等との比較

一般環境大気質については環境基準値や指針値と、航空機騒音については環境基準値と比較した結果、環境監視結果は、次の場合を除いて環境基準値または指針値以下であった。

- ・常時監視局である苅屋局において、浮遊粒子状物質（SPM）については、黄砂の影響と考えられる環境基準値（短期的評価）を上回る日があった。
- ・苅屋局並びに定期監視を行っている美浜町上野間において、光化学オキシダント（Ox）が環境基準値を上回っていた。

なお、一般環境大気質については、愛知県が実施した周辺測定局の測定結果においても同様の傾向がみられた。

イ 過年度データとの比較

空港の供用に係る全ての項目について、過年度データとの比較をした結果、空港の供用による大きな変化はみられなかった。なお、タカ類については、富具崎における出現数が多かった。

ウ 予測結果との比較

空港の供用に係る全ての項目について、予測結果との比較をした結果、一般環境大気質については、二酸化窒素（NO₂）、二酸化硫黄（SO₂）、一酸化炭素（CO）、浮遊粒子状物質（SPM）及び全炭化水素（THC）が、いずれも予測結果より低い値であった。

航空機騒音については、全ての環境監視地点で WECPNL が 70 以下であり、予測結果の通りであった。

低周波音については、離陸時・着陸時ともに予測結果と同程度と考えられた。

タカ類等渡り鳥については、着陸機の位置に重なるタカ類は確認されなかった。また、タカ類及びヒヨドリ等渡り鳥の出現状況に大きな変化はみられなかった。

(3) まとめ

平成 21 年度の環境監視結果では、空港島等の存在及び空港の供用に伴う環境への影響はほとんど認められなかった。

(参考) 補足調査結果（水質、底質及び汀線調査）

平成 21 年度の補足調査結果は、水質及び底質については各項目とも概ね平成 20 年度までの環境監視結果等の変動の範囲内にあり、汀線については概ね安定しており大きな変化はみられなかった。

空港島及び対岸部の環境監視に関する検討委員会構成員

	氏 名	役 職 等
委員長	いわた こういちろう 岩田 好一郎	中部大学工学部都市建設工学科教授
委員	おがさわら あきお 小笠原 昭夫	名古屋学芸大学非常勤講師
委員	きただ としひろ 北田 敏廣	豊橋技術科学大学エコロジー工学系教授
委員	くどう せいとく 工藤 盛徳	東海大学名誉教授
委員	す ど つとむ 数土 勉	国土交通省国土技術政策総合研究所 沿岸海洋研究部長 (現 国土交通省国土計画局計画官)
委員	よしひさ こういち 吉久 光一	名城大学理工学部建築学科教授